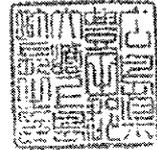


平成 20 年 10 月 21 日

大建第 321 号

国土交通省道路局長 様

大崎上島町長 藤原正孝



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別紙のとおり提出します。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

従来の道路改良では高規格の道路ができるが、反面一部には用地買収・相続等で困難な土地も多く、改良ができない路線も多い。地元住民は早急な対応を望んでおり、必要な場所・可能な場所から順次整備できる新設の交付金制度が望ましい。

道路は道路財源により維持管理をされ利用にコストの発生することはないが、離島にとって航路は道路であって生活に不可欠である。架橋の開通による航路の廃止、燃料高騰による航路の減便等、架橋のない周辺離島では交通手段がなくなっている。生活道として日常利用している離島航路を補助航路に格上げし、離島島民の生活を守ってほしい。

② - 1 地域の現状と抱える課題

広島県大崎上島町

○現状

安芸灘大橋の開通により今まで運航していた航路が廃止され、島民にとっては島から島への移動の手段がなくなりつつある。

船会社も、燃料の高騰などを引き金として、航路の再編を進めるところとなり、便数の減少、航路の廃止が進んでいる。

利用率の低迷による赤字航路の補填を黒字航路の料金の値上げによって賄っていることも島民にとって大きな負担となっている。

また、安芸灘8号橋の推進、岡村から大三島への架橋により本土と四国への道が連絡し夜間等の緊急通行も可能となり、生活圏、観光面の拡大も見込まれる。

○課題

夜間等の緊急時の移動手段がないため、架橋による連絡道の整備、航路の24時間運航が望まれる。

島にとって航路は重要な生活道路であり、低額の料金で利用でき、医療、冠婚葬祭等24時間の移動を可能とするためすべての離島航路に航路補助の創設を要望する。

③ - 2 地域の目指すべき将来像

広島県大崎上島町

- 健康づくりの推進、高齢者対策、障害者対策、次世代育成支援、低所得者対策による元気に住み続けたい気持ちを実現する町
- 生涯学習、社会体育、文化活動の拠点機能の構築し、地域を愛し個性と可能性を伸ばす人づくりよる地域を愛する人を育てる町
- 住宅、環境対策、情報・通信、防災、自然環境保全、快適な生活環境、島内交通ネットワークの整備形成による美しく住み良い環境で暮らす町
- 第1次産業の経営基盤強化、後継者育成、交流促進、雇用の促進による元気産業を育てる町
- 町民の自主活動への支援、人権問題、男女共同参画、明るい地域社会の形成による明るく温かい人と地域が支える町
- 住民参加と情報公開、広域的対応、行財政運営の適正化・効率化による理解と協働で地域を想う町

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

広島県大崎上島町

<p>○重点事項</p> <p>道路改良全般に使える交付金の創設</p>	<p>○代表事例</p> <p>地元の要望にあわせ、待避所的な局部改良が可能である補助金(交付金)が必要</p> <p>町道の総延長約174kmの内、未改良部分が約半分の90kmあり、緊急自動車の侵入できない場所もある。</p> <p>また、県道においても未改良の部分が多数あり、離合に支障をきたしている。</p> <p>写真 木江地区 県道狭隘部分(支所を結ぶ幹線道路)</p> 	<p>○期待する効果や評価</p> <p>現在の補助制度では、生活に密着した生活道の改良は採択要件に合わず、単独費用でしか工事が不可能であった。</p> <p>左記のような補助金(交付金)が創設されると、地元ニーズに速やかな対応の図れる事業が可能となり、緊急自動車の移動、災害時の移動等住民の安全確保が図れる。</p>	<p>○その他</p>
--------------------------------------	--	---	-------------